

防 災 係

1 災害対策

(1) 訓練

ア 福生市総合防災訓練

日 時 平成 17 年 8 月 28 日(日) 午前 9 時 00 分 ~ 正午
目 的 大規模な地震(直下型地震)が発生したとの想定による、市民の迅速な避難、市災害対策本部の設置・運営、関係機関との連携及び自主防災組織の行動力の向上を目的に実施した。

場 所 第 1 訓練会場 福生第一小学校(214人)
第 2 訓練会場 福生第二小学校(160人)
第 3 訓練会場 福生第四小学校(230人)
第 4 訓練会場 福生第五小学校(483人)
第 5 訓練会場 福生第六小学校(181人)
第 6 訓練会場 福生第七小学校(223人)
第 7 訓練会場 福生第一中学校(166人)
第 8 訓練会場 福東グランド(163人)

()内は各訓練会場参加者数

参加機関 福生市 福生市消防団 福生消防署 福生警察署 福生市交通安全推進委員会 公立福生病院 福生市医師会 西多摩接骨師会福生支部 福生消防署防災女性の会 (株)NTT東日本-東京西 武陽ガス株式会社 福生アマチュア無線クラブ 福生LPG協会 災害時支援ボランティア ふっさボランティア・市民活動センター 市内自主防災組織

参加者数 1,820人

イ 起震車体験訓練

目 的 人工地震の揺れのなかで、出火防止、避難路確保等の実践体験を通じて防災行動力の向上及び防災意識の高揚を図ることを目的とし、自主防災組織(町会)、学校、事業所等で福生消防署の協力により初期消火訓練、応急救護訓練等と併せて行った。

運用回数 30回 (平日 14回 土・日曜日 16回)
運用先 自主防災組織 11回、学校等 10回、事業所等 9回
体験者数 3,677人

(2) 災害対策事業

ア 自動体外式除細動器(AED)取扱い講習会

東京都の事業として自動体外式除細動器が無償譲渡されることになり、平成17年8月5日の市第1庁舎1階ロビーへの設置を前に、市職員等を対象に、福生消防署員の指導による取扱い講習会を行った。

講習日 平成17年7月11日(月)・14日(木)・15日(金)

受講者数 176人

イ 防災啓発活動

(ア) 自主防災リーダー講習会及び救命講習会

講習日 平成17年7月9日(土)午前9時15分~午後3時30分

場 所 扶桑会館及び福生消防署

受講者数 56人

(イ) ふっさ防災展

開催日 平成18年1月13日(金)・14日(土)

場 所 福生市プチギャラリー

内 容 「火災に備えよう」 住宅用火災警報器・街頭消火器設置場所
消火器の使い方
「地震に備えよう」 我が家の耐震診断・家具転倒防止器具
非常持ち出し袋
「いざという時」 我が家の避難場所・災害備蓄品・備蓄食糧
「消防署コーナー」 応急救護指導・AED
各コーナーごとに、パネル・実物の展示、パンフレットの配布等を行った。

見学者数 101人

(ウ) 自主防災組織による災害体験学習

月日	自主防災組織名	学 習 場 所	参加者数(人)
6.11	福生団地地区	さいたま市防災センター	35
9.11	鍋ヶ谷戸第一地区	さいたま市防災センター	35
9.13	富士見台地区	本所都民防災教育センター	30
9.18	熊川牛浜地区	さいたま市防災センター	100
9.19	本町中央地区	立川都民防災教育センター	20
10.1	志茂第二地区	横浜市民防災センター	40
10.2	永田地区	千葉県西部防災センター	30
10.22	武蔵野台一丁目地区	横浜市民防災センター	25
10.23	本町第三地区	立川都民防災教育センター	20
10.29	南田園二丁目地区	立川都民防災教育センター	32
10.30	福栄地区	立川都民防災教育センター	33
11.6	南地区	小平市ふれあい下水道館	30
11.12	本町第二地区	狭山市消防本部	25
11.23	本町第八第一地区	横浜市民防災センター	40
12.11	本町第八第二地区	埼玉県防災学習センター	30
18.1.21	長沢地区	本所都民防災教育センター	30
1.22	本町第一地区	さいたま市防災センター	25
1.28	原ヶ谷戸地区	立川都民防災教育センター	40
2.4	加美平団地地区	消 防 博 物 館	40
2.5	武蔵野地区	横浜市民防災センター	30
2.11	本町第六地区	立川都民防災教育センター	25
2.12	加美第一・第二地区	消 防 博 物 館	30
2.19	鍋ヶ谷戸第二地区	立川都民防災教育センター	40
3.4	内出地区	横浜市民防災センター	30
3.5	玉川台地区	さいたま市防災センター	30
合計	25地区		845

(エ) 自主防災訓練の実施

自主防災組織名	参加者数(人)	自主防災組織名	参加者数(人)
福生熊川住宅地区	150	牛浜第一地区	70
南地区	130	原ヶ谷戸地区	72
内出地区	160	志茂第一地区	20
武蔵野地区	44	本町第七地区	80

自主防災組織名	参加者数(人)	自主防災組織名	参加者数(人)
鍋ヶ谷戸第一地区	80	本町第八第一地区	27
玉川台地区	30	本町第八第二地区	50
福栄地区	20	加美平団地地区	100
熊川牛浜地区	90	長沢地区	170
福生団地地区	155	加美第一地区	300
南田園一丁目地区		加美第二地区	
南田園二丁目地区		合計(21地区)	1,748

ウ 応急対策資器材・物資整備計画

応急食糧として乾パン等のランニングストックを継続実施した。

避難所の機能強化のため、避難所に指定されている福生地域体育館に備蓄倉庫を設置した。

エ 初期消火体制強化計画

街頭設置消火器及び格納箱の新旧取替えを実施した。

2 消防活動

(1) 常備消防(福生消防署)

福生、羽村、瑞穂の2市1町を管轄区域として、本署と3出張所に総員189名の署員と消防ポンプ車5台、予備車2台、化学車1台、ハシゴ車1台、救急車3台、救急予備車1台、指揮隊車1台、指揮観察車1台、査察広報車3台及び人員輸送車1台からなる陣容で予防行政の執行、災害活動等に従事している。

出場状況(管轄区域)

(単位:件)

火災	非火災	水災	救急	救助	危険排除	緊急確認	合計	前年度合計
117	31	3	7,223	391	116	62	7,943	8,299

(2) 非常備消防(福生市消防団)

市内に5個分団、団員186人と消防ポンプ車5台、指揮車1台からなる消防団組織があり、消防活動を実施している。

ア 消防団組織

団長 (1人) 副団長 (4人) 本部付団員(6人)	—	第一分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部長 (3人)	班長 (9人)	団員 (20人)
		第二分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部長 (3人)	班長 (9人)	団員 (20人)
		第三分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部長 (3人)	班長 (9人)	団員 (20人)
		第四分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部長 (3人)	班長 (9人)	団員 (20人)
		第五分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部長 (3人)	班長 (9人)	団員 (20人)

イ 配置車両

分団名	車両ナンバー	車両の種類	車両購入年月日
団本部	八王子800さ6574	普通自動車「ワゴンタイプ」(ニッサン)	平成15年9月
第一分団	八王子88す・659	普通消防ポンプ自動車(ヒノ)	平成10年11月
第二分団	八王子88さ8964	〃	平成9年10月
第三分団	八王子830さ2303	普通消防ポンプ自動車(ミツビシ)	平成11年11月
第四分団	八王子88さ8169	普通消防ポンプ自動車(ヒノ)	平成9年3月
第五分団	八王子830さ2305	普通消防ポンプ自動車(ミツビシ)	平成12年12月

ウ 年齢別団員数（平成 18 年 2 月 27 日現在）（単位：人）

年齢 団員数	18～20 歳	21～25 歳	26～30 歳	31～35 歳	36～40 歳	41～45 歳	46～50 歳	51 歳以上
186	0	23	55	52	41	14	1	0

エ 在職年数別団員数（平成 18 年 2 月 27 日現在）（単位：人）

在職年数 団員数	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上 25 年未満	25 年以上 30 年未満	30 年以上
186	60	61	37	23	4	1	0

オ 退団・入団員数（単位：人）

区 分	平成 17 年 4 月 1 日現在	退 団 者	入 団 者	階 級 異 動	平成 18 年 4 月 1 日現在
本 部	5	2		2	5
本部付団員	6	1	1		6
第一分団	35	6	6		35
第二分団	35	9	10	1	35
第三分団	35	4	5	1	35
第四分団	35	7	7		35
第五分団	35	4	4		35
合 計	186	33	33	0	186

カ 消防団員火災出動状況

火災発生件数(件)	出 動 回 数(件)	延べ出動団員数(人)	平均出動団員数(人)
53	35	3,599	102.8

キ 消防団出動状況（風水害等）

延べ出動団員数(人)	出 動 回 数(回)
0	0

ク 消防団警戒等特別出動状況

警 戒 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
祭 礼 警 戒	116	2
七 夕 警 戒	376	4
歳 末 警 戒	426	3
そ の 他 の 警 戒	697	13
合 計	1,615	22
前 年 度 合 計	1,420	25

ケ 消防団各種訓練（消防）

訓 練 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
火 災 防 御 訓 練	343	4
ポ ン プ 操 法 訓 練	4,717	66
機 関 訓 練	1,704	53
規 律 ・ 礼 式 訓 練	316	3
教 育 訓 練	478	9
住 民 指 導	29	2
合 計	7,587	137
前 年 度 合 計	8,456	143

コ 消防団各種訓練（災害）

訓練名	延べ出動団員数（人）	出動回数（回）
教育訓練	477	8
住民指導	866	33
合計	1,343	41
前年度合計	1,305	46

サ ポンプ操法審査会（第 53 回）

審査会は、団員に対して消防ポンプ操法の基本を身につけ、指揮者と団員との連携を訓練し、もって団員の士気向上を図り、火災防御活動が迅速かつ確実にでき、火災による生命・財産の損害を最小限に防止することを目的とし、ホースカーによるホース延長操法及び手びろめによる延長操法を隔年で実施している。

平成 17 年度	手びろめによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第四分団	第一分団	第三分団
チーム成績	第四分団 B	第一分団 B	第三分団 B

前 年 度	ホースカーによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第四分団	第三分団	第一分団
チーム成績	第四分団 B	第三分団 B	第四分団 A

（ 3 ） 火災の状況

ア 月別火災発生件数

区分 月	建 物			車両 (件)	その他 (件)	合計 (件)	焼失面積 (㎡)	非火災 (件)	消防団 出動回数 (回)
	全焼 (件)	半焼 (件)	ぼや (件)						
4			2	1	3	6		1	3
5		3			2	5	12 (22)	1	4
6			3			3		3	3
7		2			2	4	24 (2)		4
8	1	1	2		1	5	73 (8)	1	4
9			1	1		2		2	1
10	1	1	3			5	35 (1)		1
11		2	4	2	5	13	20 (15)		4
12	1	1			1	3	177 (276)		1
18 年 1			1			1		4	2
2		1	1			2	5	3	4
3		1	1		2	4	(5)	1	4
合 計	3	12	18	4	16	53	346 (329)	16	35
前年度 合計	3	8	24	1	22	58	246 (133)	13	22

半焼は、部分焼を含む。焼失面積の（ ）内は、表面積

イ 原因別火災件数

(単位：件)

原因		放火 (疑い含む)	たばこ	ストーブ	ガスコンロ等	火遊び	その他	合計
件数	平成17年度	29	3		10	2	9	53
	前年度	31	13		5	3	6	58

(4) 消防水利施設

ア 水利

(単位：基、箇所)

消火栓		合計	防火水槽			貯水槽		合計	プール
150mm未満	150mm以上		20 m ³ 未満	20 m ³ 以上 40 m ³ 未満	40 m ³ 以上 60 m ³ 未満	60 m ³ 以上 100 m ³ 未満	100 m ³ 以上		
456	156	612	37 (0)	6 (0)	99 (88)	17 (17)	20 (20)	179 (125)	17

() は、耐震性防火水槽・貯水槽で内数

イ 消火栓新設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	口径	備考
1	大字福生 286 番地	100 × 75	地下式単口
2	大字熊川 386 番地	"	"
合計	2 箇所		

ウ 消火栓移設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	新口径	旧口径	備考
1	本町 36 番地	100 × 75	100 × 75	地下式単口 地下式単口
2	大字福生 556 番地	100 × 75	100 × 75	地下式単口 地下式単口
合計	2 箇所			